

赤日野曇安 脊椎疾患専門 外来立ち上げ

治療の方向性早期に

安曇野赤十字病院（澤海明人院長）はこのほど、高齢化の進展とともに増加する脊椎疾患の紹介患者を対象とした専門外来を立ち上げた。完全予約制で、必要な患者には初回の診察時にMRIなどの検査を実施。専門医が病状を総合的に精査し、治療の方向性を早期に見出すことで、原因不明の慢性的な疼痛に悩まされる患者らの不安解消につなぐことが大きな狙いだ。

「脊椎疾患専門外来」

受け入れ患者数は、診療の質を担保する観点から医師1人につき最大で6人程度としている。

腰部脊柱管狭窄症などの脊椎疾患による紹介患者は、高齢化の進展とともに年々増加。従来は整形外科の一般外来で対応していたが、予約のない紹介患者の来院が同一日に重なった場合など、診察までに半日程度待たせ

ることもあった。さらにMRI検査の予約は1、2週間先まで埋まっており、紹介患者であっても初回の診察時に詳細な検査を行うことは不可能だった。

し、治療の方向性をその場で提案。生活面の指導なども含め、疾患や治療法に対する詳細な説明を行い、患者不安の解消につなげる。

完全予約制の専門外来を開設することで、必要な患者には初診時にMRIなどの検査が実施可能となる。結果を基に専門医が総合的に病状を精査

泉水部長は、高齢化に伴う患者数の増加で「整形外科の外来はこの病院も手一杯。病状や治療法について、個々の患者が満足いくまで説明することは難しい状況」と指

摘。専門医が時間を掛けて対応し、患者の不安を取り除くことで「患者は」初めて自分の病氣と向き合い、納得して治療に臨むことができる。複数の医療機関を受診しても長引く疼痛の原因が分からず、治療法が見出せない患者らに貢献できるのではないかと開設のメリットを話す。